

千葉県キャリア教育の基本方針

# 未来を拓くキャリア教育 (案)

令和5年 月

千葉県

# 目次

<b>I 総論</b>	<b>1</b>
1 基本方針の趣旨	1
2 本市の子どもたち	2
3 本市のキャリア教育の目標	6
4 本市のキャリア教育の方向性	7
5 本市のキャリア教育を支える環境 「縦と横の連携図」	8
6 本市のキャリア教育の進め方 「児童生徒の成長目線図」	10
<b>II 各論</b>	
1 本市のキャリア教育の進め方のポイント 「学校内での推進体制目線図」	11
2 発達段階ごとのキャリア教育	15
<b>III 参考資料</b>	<b>18</b>
1 キャリア教育とは	18
2 キャリア教育の位置付け	20
3 これからの社会	21
4 これまでの本市のキャリア教育	22
5 具体的な取組についての説明や補足	23

\* 「未来を拓く」とは・・・

将来の予測が困難な状況の中、子どもたちが将来の夢や目標、希望に向けて、主体性をもって様々な課題に取り組んでいくことです。子どもたちが自分らしい生き方を実現するために必要な能力・態度を育むキャリア教育は、次代を切り拓く、未来につながる学びでもあります。

# I 総論

## 1 基本方針の趣旨

### (1) キャリア教育の本質

- ・将来、なりたい自分になるため
- ・将来、なりたい姿を見つけるため
- ・様々な能力を身に付けるため
- ・視野や価値観を広げる など

何で勉強をしなく  
ちやいけないの？



キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」\*1です。

また、「キャリア発達」とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」\*2とされています。

つまり、キャリア教育は、単に仕事や働くことについて勉強する、というだけではなく、子どもたちが自分らしい生き方を実現するために必要な能力・態度を育む教育であり、学校教育活動の目的そのものです。

社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素としては、「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力、創造力」「意欲・態度及び価値観」「専門的な知識・技能」が挙げられます。

また、キャリア教育がその中心として育成すべき「基礎的・汎用的能力」については、以下の4つで構成されています。

人間関係・社会形成能力	自己理解・自己管理能力
課題対応能力	キャリアプランニング能力

これら4つの能力を学校教育全体の中で育成していきます。

## (2) 本市のキャリア教育

社会構造や雇用環境が急速に変化しており、「不確かな時代」「人生 100 年時代」と言われる中、生き方に関する教育・学びは一層重要となっています。

2019 年には OECD (経済協力開発機構) から「ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030」が公表されるとともに、国では 2040 年以降の社会を見据えた教育政策に関する総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました\*3。ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものです。

日本社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感 (現在と将来、自分と周りの他者)」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現 (達成感、キャリア意識など)」などが挙げられます。これらは自分らしい生き方を実現していくキャリア教育とつながりが深いものです。キャリア教育を通して自分らしい生き方を実現する力や態度を育み、それがウェルビーイングの向上につながっていくと言えます。

変化の激しい、不確かな時代だからこそ、一人ひとりが社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、生きる力を育むことが重要です。

本市では、本市の資産である地域の多様な「人々との関わり」を通じて、自己肯定感を高め、未来を自らの力で拓いていくことを目指しています。

また、本市の大切な資源 (産業界等) をフル活用しながら、より効果的に進め、「未来を拓く子ども」(「第 3 次千葉市学校教育推進計画」より) を育てていきます。

キャリア教育の目標が達成できるようにするために、本市ではキャリア教育グランドデザインを作成しています。これは全教職員が協力して作ります。校内推進体制を整え、グランドデザインの共有をし、円滑に実践していきます。

これからの時代、一人一人の児童生徒が豊かな生き方を実現していくためには、様々な場面において ICT を効果的に活用していくことが求められます。キャリア教育の視点でも、学校生活の中で、ICT 活用能力の育成を図っていく必要があります。

\*1,2 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」(平成 23 年 1 月 31 日) より

\*3 OECD「ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030」(令和元年 5 月)、第 4 期教育振興基本計画 (令和 5 年 6 月 16 日閣議決定)

## 2 本市の子どもたち

### 本市の子どもたちの現状

全国学力・学習状況調査において、キャリア教育と関連がある項目から本市の子どもたちの現状をみていきます。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

※データは肯定回答の割合

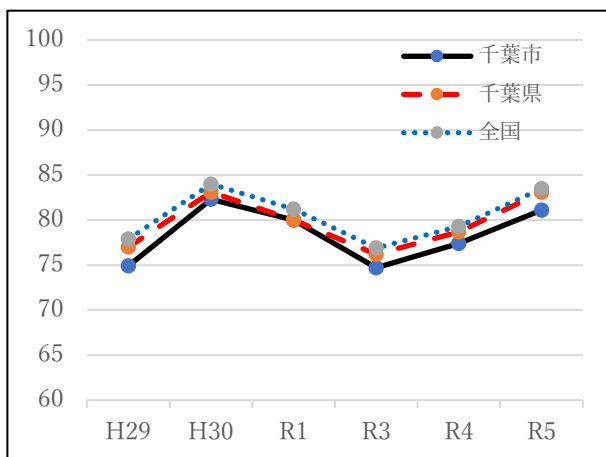
#### 【考察】

- ・本市児童生徒は、自己肯定感やチャレンジする姿勢に課題がある。
- ・学習と将来とのつながりを考え、目標を設定する力を育成することが大切である。
- ・夢や目標を持っている児童生徒が少ないが、本市の児童生徒は現実を見ているという考え方もできる。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒に比べ、「地域や社会をよくするため何をすべきかを考えることがある」(R5「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」)と答えた児童生徒が少ない。自信をもって主体的に行動できる児童生徒を育成する必要がある。
- ・本市の各学校においては、地域性や学校規模などが多種多様であり、上記で述べたような全体的な傾向が必ずしも当てはまるとは限らない。
- ・下記指標等による自校の状況について把握し、各学校におけるキャリア教育の目標や身に付けるべき力の設定が必要である。

質問①：自分には、よいところがあると思いますか。

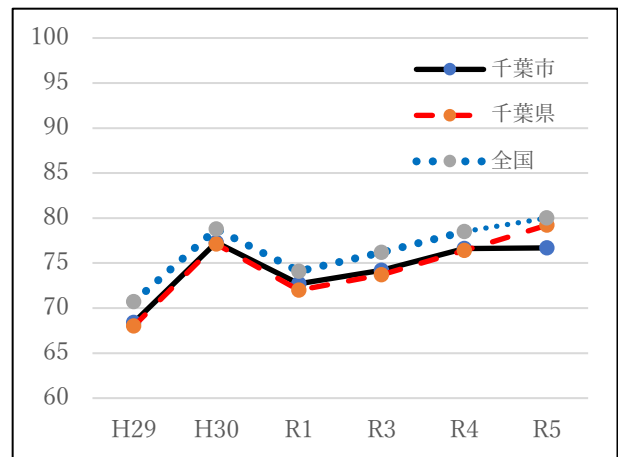
- ・小中学生ともに全国や県より低い傾向があり、自己肯定感に課題がある。

#### 【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	74.9	82.3	80	74.7	77.4	81.1
千葉県	77	83.1	80	76.2	78.7	83.1
全国	77.9	84	81.2	76.9	79.3	83.5

#### 【中学生】

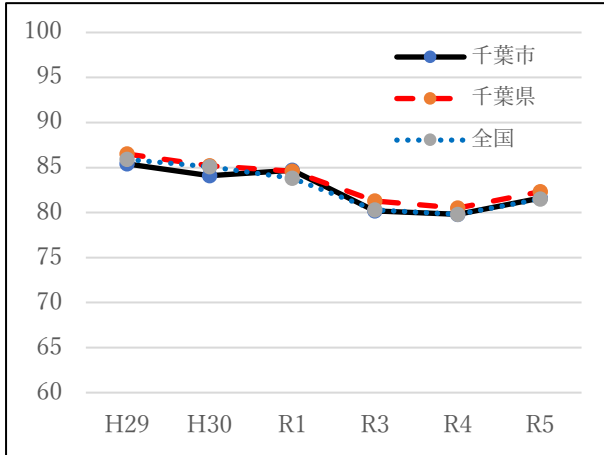


	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	68.4	77.3	72.7	74.2	76.6	76.7
千葉県	68	77.1	72	73.7	76.4	79.2
全国	70.7	78.8	74.1	76.2	78.5	80

質問②：将来の夢や目標を持っていますか。

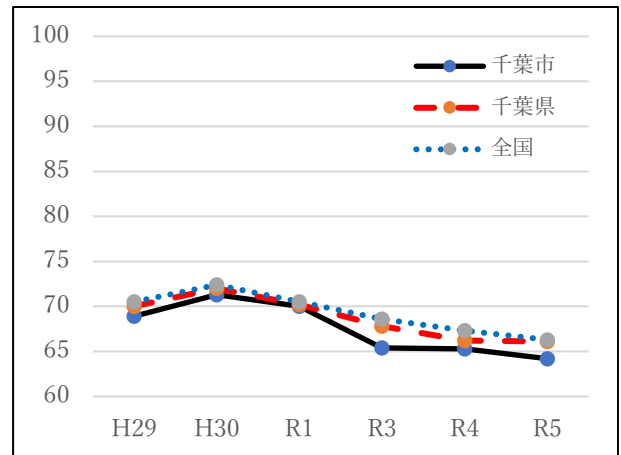
・小中学生ともに全国や県より低い傾向がある。特に中学生が低い。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	85.4	84.1	84.7	80.2	79.8	81.6
千葉県	86.5	85.2	84.6	81.3	80.5	82.3
全国	85.9	85.1	83.8	80.3	79.8	81.5

【中学生】



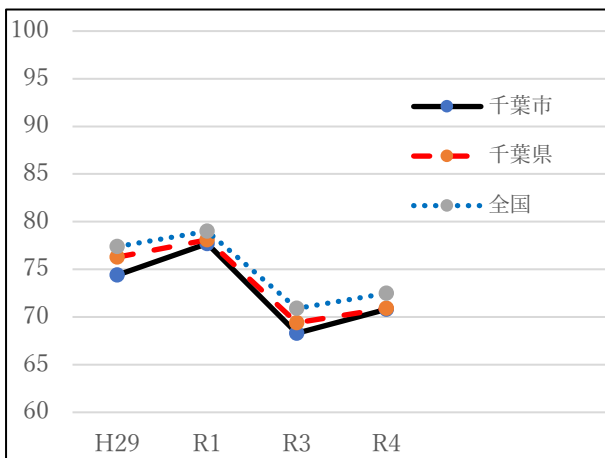
	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	68.9	71.3	70	65.4	65.3	64.2
千葉県	70	72	70.2	67.8	66.2	66.1
全国	70.5	72.4	70.5	68.6	67.3	66.3

質問③：難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

※H30, R5 は質問項目なし

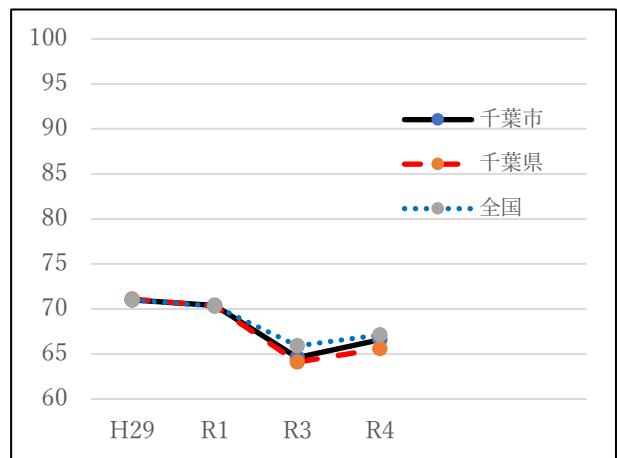
・小学生はチャレンジする姿勢に課題がある。中学生は平均並みであるが高いとは言えない。

【小学生】



	H29	R1	R3	R4
千葉市	74.4	77.7	68.3	70.8
千葉県	76.3	78.1	69.4	70.9
全国	77.4	79	70.9	72.5

【中学生】

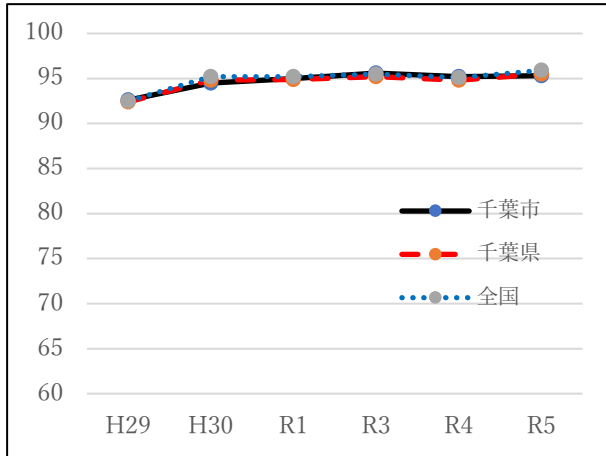


	H29	R1	R3	R4
千葉市	71	70.4	64.6	66.6
千葉県	71.1	70.3	64.1	65.6
全国	71	70.3	65.9	67.1

質問④：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

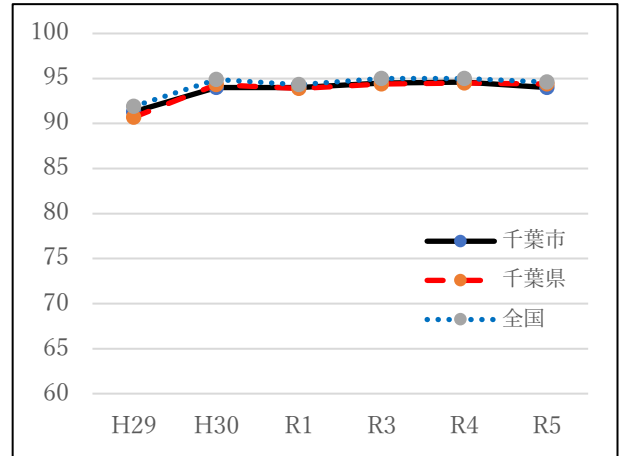
・多くの小中学生が誰かの役に立ちたいという思いを持っている。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	92.6	94.5	95	95.6	95.2	95.3
千葉県	92.4	94.8	94.9	95.2	94.8	95.5
全国	92.5	95.2	95.2	95.5	95.1	95.9

【中学生】



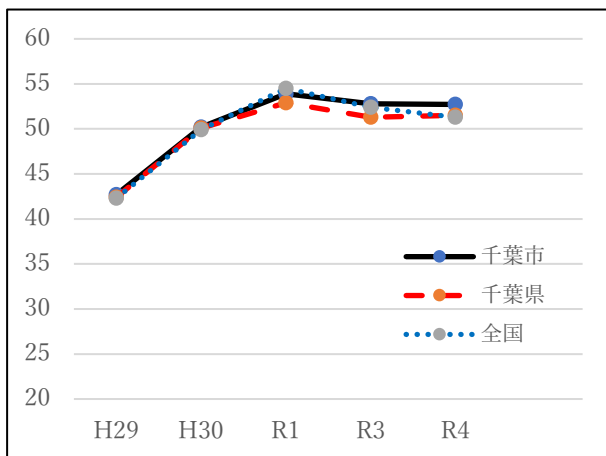
	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	91.3	94	94	94.5	94.6	94
千葉県	90.7	94.3	93.9	94.4	94.5	94.4
全国	91.9	94.9	94.3	95	95	94.6

質問⑤：地域や社会をよくするため何をすべきかを考えることがありますか。

※R5 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

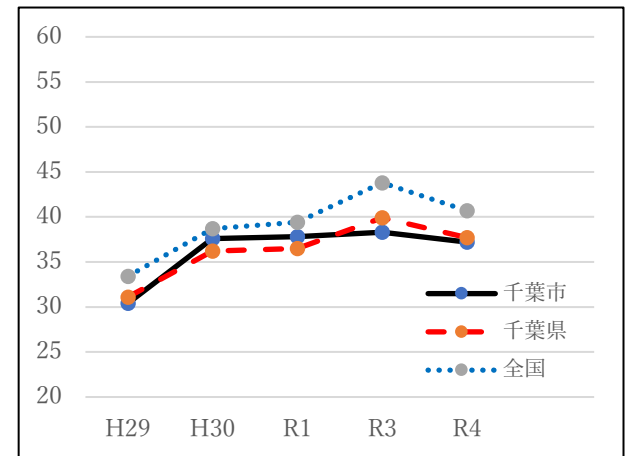
・地域や社会に貢献しようとする思いを持っている中学生が少ない。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	※R5
千葉市	42.7	50.2	53.9	52.8	52.7	77.4
千葉県	42.4	50.1	52.9	51.3	51.5	75.6
全国	42.3	49.9	54.5	52.4	51.3	76.8

【中学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	※R5
千葉市	30.4	37.6	37.8	38.3	37.2	62
千葉県	31.1	36.2	36.5	39.9	37.7	62.8
全国	33.4	38.7	39.4	43.8	40.7	63.9

### 3 本市のキャリア教育の目標

「一人ひとりが自分のよさや可能性に気づき、  
夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる児童生徒の育成」

第3次千葉市学校教育推進計画では、目指すべき子どもの姿を「夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども」としています。夢や目標、希望に向けて、未来を切り拓いていくことが大切です。

しかし「本市の子どもたちの現状」(p.2)によると、本市児童生徒は、自己肯定感やチャレンジする姿勢に課題があると言えます。自分のよさや可能性に気づき、自分を好きになること、そして自信を持ち生活できる児童生徒を育成していくことが第一に必要です。小学校低学年期より、自己肯定感を高め、自分のよさを認め、さらによさや可能性を広げていくことにより、夢や目標、希望に向かって主体的に行動できる児童生徒の育成を目指していきます。

また、「社会に貢献したい」という思いはあるが、そのための方法や手段がわからない児童生徒が多いことも課題です。社会の中には様々な役割があり、多くの人々がその役割を担うことで社会を作り上げていることや、自らの役割を果たすことで達成感や充実感が得られることなどを児童生徒が実感できるようにしていきます。

キャリア教育で目指す社会的・職業的自立のために必要なことは、日頃の学校生活において、主体的に行動できる児童生徒を育成していくことです。学校生活の中には、学習指導を始め、児童会・生徒会など、それらを育成する機会が多く存在します。学校経営方針を考えていく際には、児童生徒の主体的な学び、活動となるよう意識する必要があります。

児童生徒の夢や目標、希望を後押しし、主体性を育成していけるよう、キャリア教育を推進していきます。



【参考】千葉市の教育に関する大綱（令和4年度から令和7年度）

#### ○キャリア教育の充実

- ・子どもたち一人ひとりが夢や目標を持ち、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を身に付けることができるよう、職業体験学習や進路指導体制の充実、起業家教育など、産学官が連携して小中学校におけるキャリア教育を推進し、本市を支える人材の育成にもつなげていきます。



## 4 本市のキャリア教育の方向性

### (1) 各学校全体でのキャリア教育の推進

各学校における教育課程は、校長のリーダーシップのもと、全教職員が協力して編成していくものです。特に、キャリア教育は、児童生徒が行う全ての学習活動等が影響するため、学校の全ての教育活動を通して推進されなければなりません。

また、各学校では校長の方針に基づき、キャリア教育の目標が達成できるように、全教職員が協力してグランドデザインを作成し、円滑に実践していく校内推進体制を整える必要があります。(p.9,10の図参照)

### (2) 小・中・高各段階の「縦」の連携の推進

キャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子どもの発達の段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものです。そのため、小・中・高の「縦」の連携を具現化していく上では、児童生徒一人ひとりのキャリア形成の過程をとらえるため、積み重ねた資料（キャリア・パスポート）の作成や活用、学校間での連携が必要です。(p.8の図参照)

### (3) 地域・家庭・企業等との「横」の連携の推進

キャリア教育を実践する中で、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結び付けることにより、児童生徒の学習意欲が高まります。つまり一人ひとりの子どものキャリア発達を促進するには、学校だけでなく外部（家庭、地域、企業等）からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であるといえます。このような外部との連携を「横」の連携と捉え、推進していきます。(p.8の図参照)

### (4) 教職員の指導力向上のための研修の充実

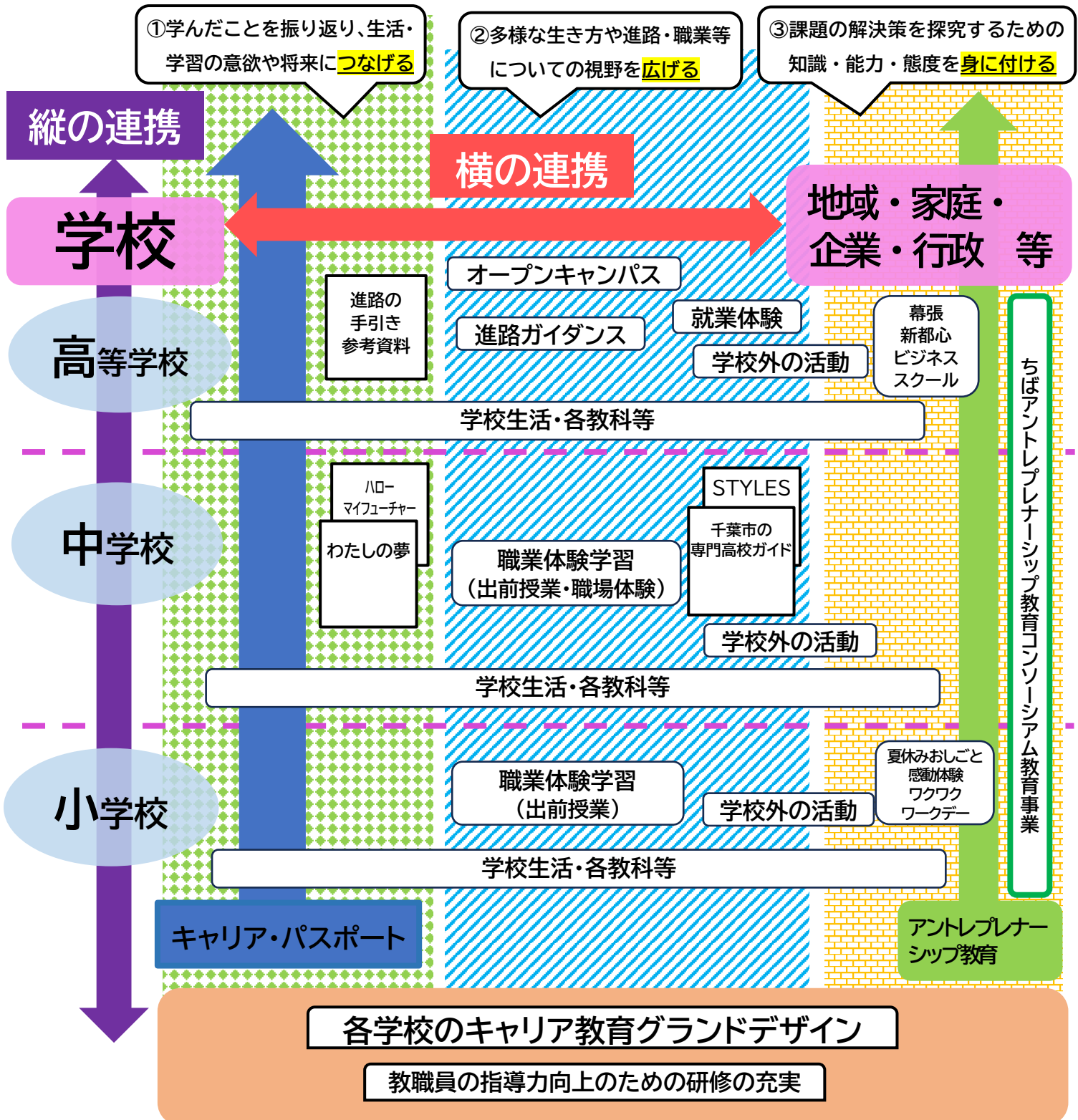
キャリア教育を充実させ、その目標を達成する鍵をにぎるのは、指導する教師のカリキュラム編成やその運用能力、そして授業での指導力などです。キャリア教育に係る研修等を充実させることで、校内で中心となりキャリア教育の推進する教職員の育成や教職員全体の指導力向上を図っていきます。

※特別支援学校（知的障害）においては、それぞれの児童生徒の実態にあわせ、自立および就労（社会参加）を目指した指導・支援を中心にキャリア教育を進めています。  
※本市の特別支援教育のあり方については、第2次千葉市特別支援教育推進基本計画を参照してください。

## 5 本市のキャリア教育を支える環境 「縦と横の連携図」

本市で取り組んでいるキャリア教育を整理すると、下の図のようになります。  
縦と横のつながりを意識し、各学校におけるキャリア教育をさらに充実していきましょう。

夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる児童生徒



本市の取組		ねらい
キャリア教育 グランドデザイン		各校の実態に応じて身に付けさせたい力を明確にして作成し、全教職員で共有することで、見通しをもちキャリア教育を推進することができる。
① つなげる	キャリア・パスポート	子どもたちが自らの成長を振り返り、自分のよさや可能性に気付くことで、主体的に学びに向かう力を育み、夢や目標、希望に向かい、自己実現につなぐことができる。 教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって児童生徒の成長を促し、系統的な指導・支援をすることができる。
	わたしの夢	主に特別活動「学級活動（２）（３）」の時間に活用することで、自分のよさや可能性に気付くとともに、学ぶ意味や自分らしい生き方について考えることができる。
	ハローマイフューチャー	主に特別活動「学級活動（２）（３）」の時間に活用することで、自らを振り返ったり、情報を整理したりしながら、自分のよさや可能性、自分らしい生き方から自分に合った進路選択ができる。
	進路の手引き 参考資料	進路選択に必要な基本情報を理解し、進路選択をすることができる。また、合格体験記等を自らの進路活動に活かすことができる。
② 広げる	職業体験学習 (出前授業)	学習することや働くことの意味に気付いたり、生き方の幅や考え方を広げたりできる。
	職業体験学習 (職場体験)	そこで働く方々の生き方や仕事への思いなどに直接触れる体験を通して、職業観を始め、自らの生き方について考えたり、社会へ貢献していこうとする態度を身に付けたりする。
	千葉市の専門高校 ガイド	本市内にある３つの専門高校の情報に触れることで、進路選択の幅を広げる。
	STYLES	生徒が技術、技能職への理解を深めたり、興味、関心をもったりするとともに、進路選択の方法や幅を広げる。
	進路ガイダンス	専門家や大学・短大、専門学校等の担当者から、将来の進路選択に必要な情報を収集することができる。
	オープンキャンパス	進学を希望する大学・短大や専門学校に実際に行くことで、パンフレットやwebだけでは分からない学校の特徴や雰囲気を感じることができる。
就業体験	将来就きたい業界、企業、職種の人々と接することにより、実的な知識や技術に触れ、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、主体的に進路を選択決定する態度や意欲を培う。	
③ 身に付ける	ちばアントレプレナーシップ 教育コンソーシアム Seedlings of Chiba	産学官連携により提供される起業体験講座や課題解決プログラムを通して、激しく変化する社会の動きに柔軟に対応する能力、自らの力で仕事を創り出す上で必要な能力が育つ。
	夏休みおしごと感動体験 ワクワクワークデー	興味ある事柄の発見につながったり、働くことの意味や将来について考えるきっかけとなったりする。
	幕張新都心ビジネス スクール	身の回りの身近な課題解決に向け、先端技術を用いた解決法を高校段階の生徒が考えることにより、進路選択の一つとして起業家の視点をもつことができる。

- ① 学んだことを振り返り、生活・学習の意欲や将来につなげる
- ② 多様な生き方や進路・職業等についての視野を広げる
- ③ 課題の解決策を探究するための知識・能力・態度を身に付ける

## 6 本市のキャリア教育の進め方 「児童生徒の成長目線図」

学校内外における様々な活動で経験を積み重ね、「キャリア・パスポート」に記録したり、振り返ったりしながら夢や目標、希望に向けて主体的に行動できる児童生徒の育成を図ります。





## II 各論

### 1 本市のキャリア教育の進め方のポイント 「学校内での推進体制目線図」

各学校においては、「グランドデザイン」を基盤とし、「キャリア・パスポート」を中心にキャリア教育を進めていきます。  
「キャリア・パスポート」につながる活動の内容は、各学校が実態に応じて計画的に定めます。

キャリア教育グランドデザインが、各校のキャリア教育の基盤となる

夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる児童生徒

キャリア教育グランドデザイン

#### 【各教科等の学習】

- ・各教科 ・学校行事
- ・児童会 ・生徒会活動
- ・係、当番活動
- ・クラブ、部活動
- ・異学年交流 など



キャリア・パスポートの充実につながる

#### 【副読本、教材の活用】

- ・わたしの夢
- ・ハローマイフューチャー
- ・千葉市の専門高校ガイド など



## 「キャリア・パスポート」

キャリア・パスポートの作成、活用は、学級活動の時間に取り扱う

#### 【地域の教育力の活用】

- ・保護者
- ・地域協力者
- ・地域企業、事業所 など



#### 【体験活動の充実】

- ・自然体験活動
- ・修学旅行
- ・職業体験学習 など



## 縦と横の連携を支えるもの

### ○キャリア教育グランドデザイン

各学校では校長の方針に基づき、キャリア教育の目標が達成できるように、全教職員が協力してキャリア教育グランドデザインを作成し、円滑に実践していく校内推進体制を整える必要があります。

4つの基礎的・汎用的能力（人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）は、均一・均等な能力設定にする必要はありません。各学校の実態に応じて、重点を設定することが大切です。また、児童生徒の実態や発達段階を踏まえ、4つの基礎的・汎用的能力を具体的な力として各学校で設定します。（「キャリア教育ガイドブック」2018 教育センター を参照）

児童生徒の自己肯定感を高めるには、教員が一人ひとりのよさを認め、価値付けることが大切です。学校として設定した力がはっきりと具体的な言葉になっていれば、教職員全体で褒めポイントを共有することができ、児童生徒も自己理解を深めることができます。



### <キャリア教育グランドデザイン作成のポイント>

- ① 日常の様子等を分析するとともに、児童生徒と保護者へのアンケートを実施するなどして、学年ごとの児童生徒の実態を把握し、育成すべき資質・能力について検討する。
- ② 学校評議員や地域の方などの意見を聞き、学校の課題及び学校教育に対する地域の思いや願いを把握する。
- ③ 近隣校（中学校区）における目標や実態を確認した上で、自校の到達目標を設定する。
- ④ 各学年の児童生徒の実態に基づいて、各学年、または学年団（低学年・中学年・高学年）における目標を設定する。
- ⑤ 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、学級の実践等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- ⑥ 家庭・地域、学校間の連携を考慮する。

### ○教職員の指導力向上のための研修の充実

キャリア教育は、児童生徒の多様な学習状況に対応できるようにするため、教職員がチームを組んで互いにもち味を発揮して指導に当たることが必要となります。各学校においては、年間研修計画にキャリア教育を位置付け、キャリア教育で目指すべき姿や身に付けさせたい力の共通理解を図るとともに、教職員全体の指導力を向上させることが大切です。

主な研修等	ねらい
キャリア教育主任研修	本市のキャリア教育基本方針の趣旨や校内での進め方等を周知するほか、中学校区の学校同士でグランドデザインやキャリア・パスポートの共有、工夫改善を図る。
派遣研修*	校内でキャリア教育を推進するリーダーを育成するとともに、様々な研修会で講師となる教員を育成する。
研究指定校	地域の実態等に応じた先進的な取組を実施し、得られた成果や課題を普及・啓発することにより、本市全体のキャリア教育の推進を図る。

\*派遣研修…次世代リーダー研修、現場研究員、21世紀を拓く課題研修、長期研修等

## 縦の連携

### ○キャリア・パスポートの活用法について

「キャリア・パスポート」を活用した学習は、学年初め、前期の終わり、学年終わりと年間で3回から5回程度、学級活動(3)・ホームルーム活動(3)の時間に行います。一単位時間を用いて、それまでの活動を振り返り、新たな目標や修正した目標を自己決定します。その際、「自分や友達の頑張ったことについて交流し、自らのよさに気付くこと。」「友達の意見を参考にしながらこれからの目標を意思決定すること。」ができるように留意します。(p.14 参照)

作成した「キャリア・パスポート」をポートフォリオとして蓄積することで、児童生徒は自分の成長に気付くとともに、夢や目標、希望に向かうために自らを励まし、後押しするものとなります。また、教職員も一人ひとりのこれまでの成長を見取ることにより深い生徒理解につながり、質の高いキャリア・カウンセリングを実現できます。

### ○学校生活・各教科等

キャリア教育は、教育活動全体を通じて行うものでありますが、各教科等でキャリア教育を実施するに当たり、基礎的・汎用的能力を育成するための単元を設定したり、授業を行ったりすることは適切ではありません。各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を生かした指導の中には、キャリア教育で育成したい基礎的・汎用的な能力が眠っています。日常の中で教員がキャリア教育の視点を持ち、指導することが大切となります。

また、一人ひとりの児童生徒が自分のよさや可能性、成長に気付けるように、各教科等の指導や行事、学校生活全般においての振り返り活動を充実させることが重要となります。

学校生活……係活動、日直、清掃、給食当番、朝の会・帰りの会、異年齢集団活動、飼育・栽培活動など

「学級活動」が学校教育全体を通して行うキャリア教育の「要」となります。



## 横の連携

### ○家庭との連携

家庭教育の在り方、働くことに対する保護者の考え方や態度は、児童生徒の人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼします。つまり、キャリア教育の充実にあたっては、保護者にキャリア教育についての理解を得ることが重要となります。授業参観や保護者会、学校便りなどを通して、学校のキャリア教育の方針や指導内容について理解を深めるよう工夫し、支援者として協力いただけるようにします。

### ○地域との連携

地域の中で活動したり、地域の方々と交流したりする中で、多様な人間関係を体験することができます。地域の方々と温かな関わりの中で、一人ひとりが認められ、自信をもち、自己肯定感を高めることができます。

また、生涯学習の観点から、キャリア教育を進めることで児童生徒と地域をつなぐことも大切です。児童生徒の地域への愛着が深まったり、地域が活性化したりするなど、地域にとってもメリットがあります。

### ○産業界との連携（職業体験学習）

本物に直接触れる体験を通して、児童生徒の知的好奇心を醸成し、学習意欲を高め、将来就きたい仕事へのあこがれを強くします。実際の体験の中で、様々な人と関わることでコミュニケーション能力が育まれたり、生きていくために必要な資質や能力などを知ることができたりします。

また、産業界にとっても、次代を担う人材の育成や社会貢献、社員教育の一環となるなどのメリットがあります。

## <指導事例>

児童生徒の自己肯定感を高め、お互いを認め合う学級風土をつくる学級活動（3）  
～「キャリア・パスポート」を活用した学習について～

各学期や年間の振り返りを行う際、学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」ア「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」の内容にて実施します。この時、「キャリア・パスポート」を活用することで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、お互いを認め合う学級風土づくりにつながります。

1 題材 「前期の振り返りをしよう」

2 本時のねらい

前期の振り返りを通して、自分の頑張りがよさに気付くとともに、後期への希望や目標をもち学校生活を送ることができるようにする。



3 本時の展開

	児童生徒の活動	指導上の留意点	目指す児童生徒の姿と評価の方法	資料
導入【つかむ】	1 前期の行事、学習、生活などについて振り返ることに意欲をもつ。	・前期に児童生徒の頑張りがわかる資料（映像）等を準備し、活動への意欲をもてるようにする。		資料等（映像）
展開①【かぐる】	2 前期の自分を振り返り、頑張ったことや成長したことを考え、「キャリア・パスポート」に記入する。	・前期はじめに記入した「キャリア・パスポート」を振り返る際に、児童生徒の頑張りを価値づけるようにする。	・よりよく生きていくために、自分のよさや可能性に気づき、今できることに努力して取り組むことが大切であることを理解している。（知・技）	「キャリア・パスポート」
展開②【見つける】	3 班の友達とお互いに頑張ったことや成長したことを話し合う。	・友達の意見を聞く場合は、共感的に聞くように留意する。 ・友達の頑張ったことや成長したと思うこと、よさなどを伝えるように留意する。		
終末【決める】	4 年度末になりたい自分に近づくために、頑張りたいことや目標を決め、「キャリア・パスポート」に記入する。	・一人ひとりが意思決定できるように具体例を挙げる。 ・目標に向けて前向きに努力できるように励ます。	・なりたい自分に向けて自分のめあてを意思決定することができる。（思・判・表）	



## 2 発達段階ごとのキャリア教育

### ○小学校段階

低学年においては、「学校生活への適応」がキャリア発達の主たる課題となります。キャリア発達に即したねらいの例として、「自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにすること」が挙げられます。

中学年においては、「友達づくり、集団の結束力づくり」が主たる発達課題となり、ねらいの例として、「友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分のもち味や役割を自覚することができるようにすること」が挙げられます。

高学年においては、「集団の中での役割の自覚、中学校生活に向けた心の準備」が主たる発達課題となり、ねらいの例として、「苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにすること」が挙げられます。



#### 【小学校段階において育成することが期待される基礎的・汎用的能力の例】

	低学年	中学年	高学年
人間関係形成・社会形成能力の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや返事をする。</li> <li>・友達と仲よく遊び、助け合う。</li> <li>・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と友達のよいところを認め、励まし合う。</li> <li>・互いの役割や役割分担の必要性がわかる。</li> <li>・自分の生活を支えている人に感謝する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることができる。</li> <li>・異年齢集団の活動に進んで参画し、役割と責任を果たす。</li> <li>・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかる。</li> </ul>
自己理解・自己管理能力の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きなもの、大切なものをもつ。</li> <li>・決められた時間や、生活のきまりを守る。</li> <li>・自分のことは自分で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよいところを見付ける。</li> <li>・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。</li> <li>・仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。</li> <li>・自分の仕事に対して責任をもつ。</li> <li>・自分自身の将来について考えることができる。</li> </ul>
課題対応能力の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の準備や片付けをする。</li> <li>・めあてや計画を立てて活動する。</li> <li>・わからないことがあったら自分から質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。</li> <li>・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順がわかる。</li> <li>・学校生活をよりよくするために話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に必要な情報を探す。</li> <li>・見つけた課題を自分の力で解決しようとする。</li> <li>・学級活動をよりよいものにするために解決方法を話し合う。</li> </ul>
キャリアプランニング能力の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係や当番の活動に取り組み、その大切さがわかる。</li> <li>・身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心をもつ。</li> <li>・自分の成長に気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動や当番活動に積極的に関わり、働くことの楽しさがわかる。</li> <li>・いろいろな職業や生き方がわかる。</li> <li>・日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。</li> <li>・身近な産業・職業の様子やその変化がわかる。</li> <li>・学習したことや体験したこと、生活や職業との関連を考える。</li> </ul>

各学校においては、上記の表を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて育成すべき具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれます。

(参考：「小学校キャリア教育の手引き」2022 文部科学省)

## ○中学校段階

中学生期では、多くの発達課題が挙げられますが、その中でも特に、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が重要な発達課題となります。

また、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度を、体験を通じてその重要性について理解を深めさせながら育成し、進路の選択・決定へと導くことが重要です。そのためには、中学校の学年段階における発達課題を明確にして、それらを解決できるような取組を計画的に行っていくことが必要となります。

### 第1学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自分のよさや個性が分かる。
- ② 自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。
- ③ 集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。
- ④ 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。
- ⑤ 学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。
- ⑥ 将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱いている。

### 第2学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。
- ② 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。
- ③ 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。
- ④ よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。
- ⑤ 将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。

### 第3学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。
- ② 社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。
- ③ 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。
- ④ 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
- ⑤ 将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

### <キャリア・パスポートの活用とキャリア・カウンセリングについて>

学校におけるキャリア・カウンセリングは、一人ひとりの子どもたちが、学校生活における様々な体験を前向きに受け止め、日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援することを目指すものです。そのためには教員が一人ひとりの課題をしっかりと受け止めて、生徒が安心して自分の悩みを表現したり、質問したりできるような関係を構築する必要があります。

「キャリア・パスポート」を活用することで、教員は目の前の生徒が、これまでどのような課題をもち、対処してきたのかを知ることができ、カウンセリングを効果的に進めるために有効です。また、中学生のときのキャリア意識を「キャリア・パスポート」に記しておくことが、その後の進路先における課題の解決につながっていきます。



(参考:「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」2023 文部科学省)

## ○高等学校段階

高校生期においては、「自己理解の深化と自己受容」「選択基準としての勤労観、職業観の確立」「将来設計の立案と社会的移行の準備」「進路の現実の吟味と試行的参加」が特に重要な課題となります。キャリア教育の観点からは、特に学科や卒業後の進路を問わず、現実的に社会・職業の理解を深めることや、自分が将来どのように社会に参画していくかを考える教育活動などを行うため、これらを指導計画に位置付けて実施することが必要です。

その際、キャリア教育を「新たな課題」として理解するのではなく、これまでの蓄積を生かすことが重要であり、各取組をキャリア教育の視点から捉え直すことで、更なる向上を図る機会とすることができます。

### 高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例

入学から在学期間半ば頃まで	在学期間半ば頃から卒業を間近にする頃まで
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。</li> <li>・新たな環境の中で自らの役割を自覚し、積極的に役割を果たす。</li> <li>・学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る。</li> <li>・様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。</li> <li>・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する。</li> <li>・将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を見つめつつ受容する。</li> <li>・卒業後の進路について多面的・多角的に情報を集め、検討する。</li> <li>・自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する。</li> <li>・進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す。</li> <li>・理想と現実との葛藤や経験等を通し、様々な困惑を克服するスキルを身に付ける。</li> </ul>



### <キャリア・パスポートについて>

キャリア教育のねらいである「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す」ためにも、また、自らがこれまでどれほど「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付け」てきたのかを把握し、今後の課題を認識するためにも、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動」は必要不可欠です。そのような活動を記録し蓄積するものが「キャリア・パスポート」であり、「生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択する」力の育成にもつながります。

キャリア・パスポートは、新しい学習指導要領が突然もたらした新たな教育活動ではなく、これまで日本の学校教育において長年にわたって実践・活用されてきた「最終学年としてこの1年の計画を立てよう」「1学期を振り返って」「私が就業体験を通して学んだこと」などのワークシートと、軌を一にするものです。その一方で、小学校・中学校・高等学校等の学年・校種間で引き継がれながら活用される点は、これまでとは大きく異なるものになります。

キャリア・パスポートを用いて、大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わること（キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリング）を行うことは、生徒理解を深める上でも、一人ひとりのキャリア形成を支援する上でも重要です。

（参考：「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」2023 文部科学省）

# 参考資料

## 1 キャリア教育とは

### ○キャリア教育の定義

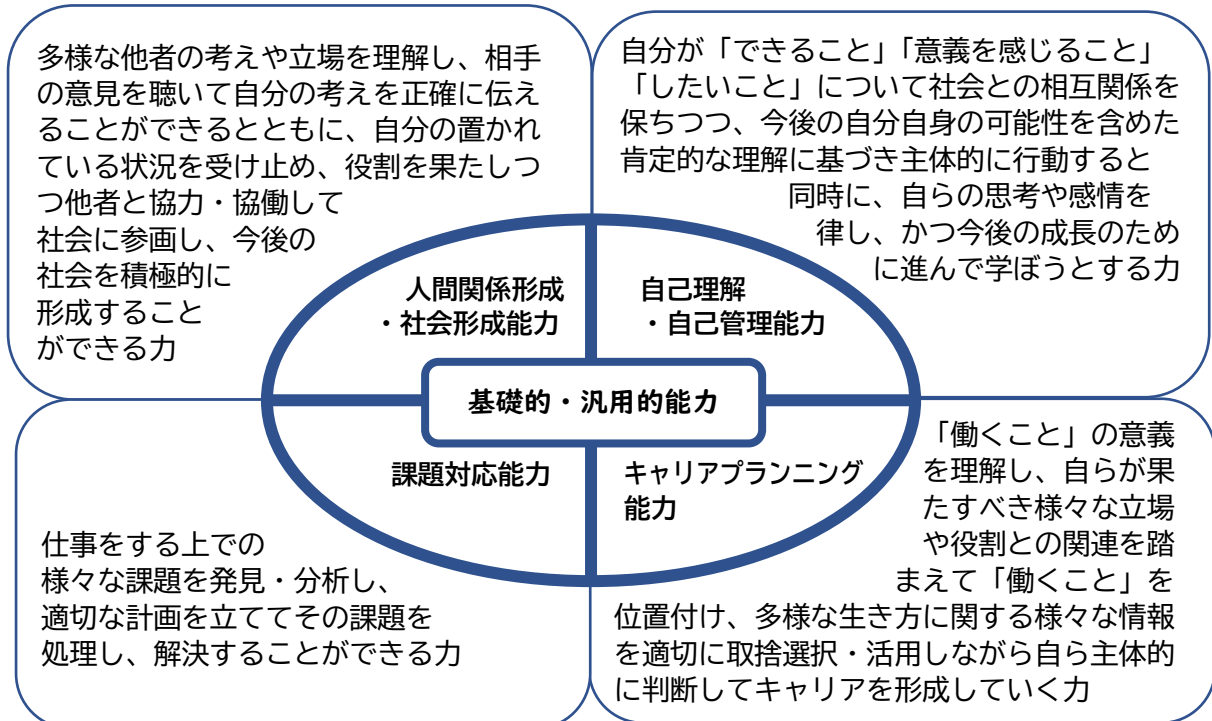
一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

#### 【キャリア発達】

社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくこと

### ○キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力は、社会的自立を図る上で必要な能力であり、発達段階を追って育成されるもので、以下の4つの能力で構成されています。



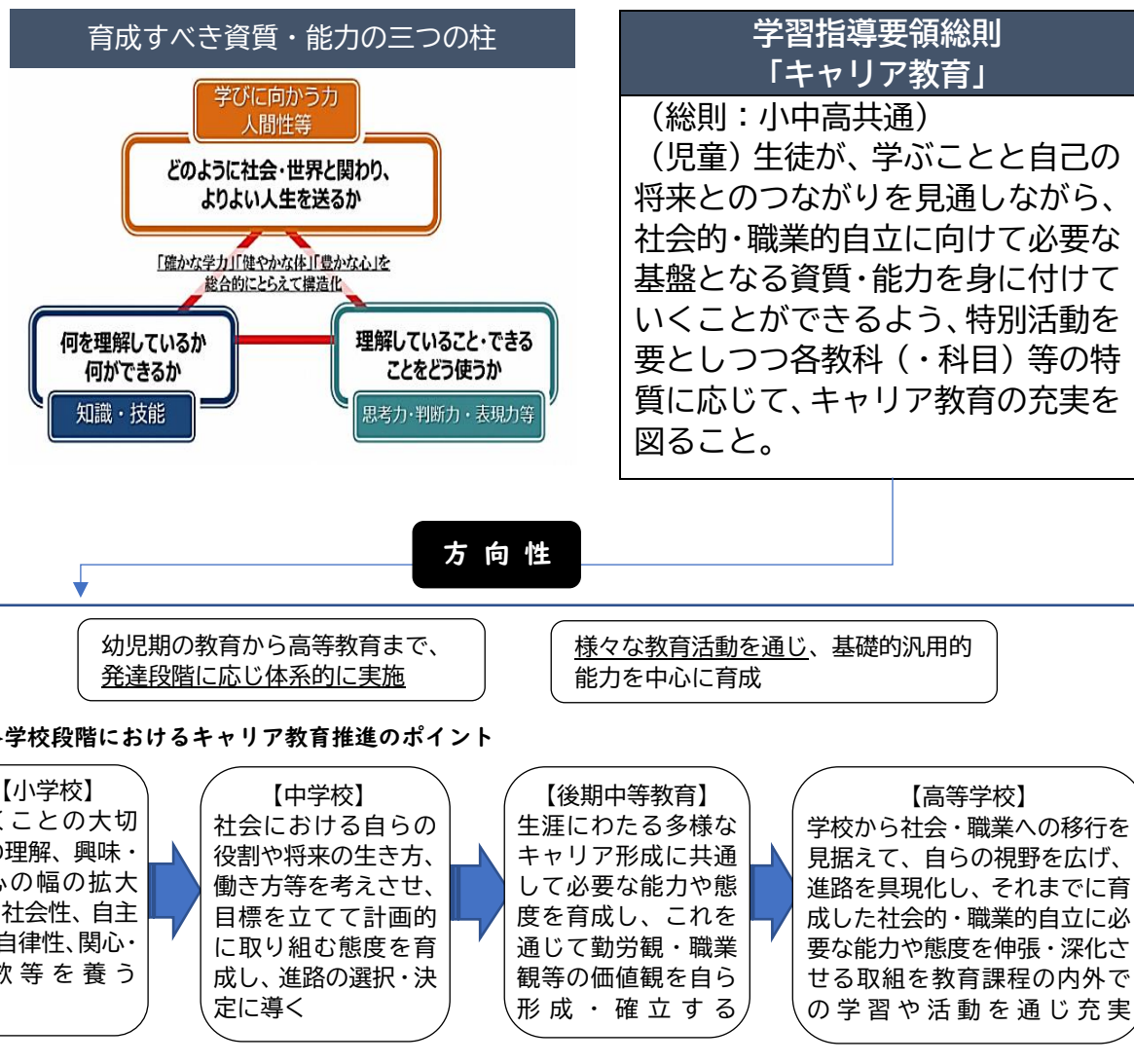


## ○学習指導要領で示すキャリア教育

平成28中教審答申「キャリア教育の課題」では、以下のような内容が取り上げられました。

- ・職場体験活動やインターンシップをすることがキャリア教育になっていないか
- ・勤労観・職業観の醸成は小学校段階では尚早と考えられていないか
- ・「夢を持って」「仕事を調べる」が固定的なキャリア教育の授業になっていないか
- ・「キャリア教育≡進路指導」から「進路（進学／就職）」という狭義な部分のみを捉え、従前の指導を続けているのではないか
- ・学校の教育活動全体で行うとされてきたことが、逆に指導場面を曖昧にしたのではないか

これらを受け、学習指導要領で示すキャリア教育は以下のように整理されました。



文部科学省 キャリア教育の推進より

## 2 キャリア教育の位置付け

### (1) 千葉市の教育に関する大綱（対象期間：令和4年度～令和7年度）

#### ○キャリア教育の充実

- ・子どもたち一人ひとりが夢や目標を持ち、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を身に付けることができるよう、職業体験学習や進路指導体制の充実、起業家教育など、産学官が連携して小中学校におけるキャリア教育を推進し、千葉市を支える人材の育成にもつなげていきます。
- ・実社会に出た後でも、自ら知識や技術を身に付けキャリアアップを図る環境を整えることで、生涯を通じたキャリア教育を推進するとともに、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進します。

### (2) 第3次千葉市学校教育推進計画（計画期間：令和5年度～令和14年度）

#### 目指すべき子どもの姿

夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども

#### 教育目標

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ

#### 各論

##### 2 豊かな心の育成

～思いやりの心の育成と一人ひとりの夢の実現～

##### 【施策の方針2-3 夢や目標に向けた学びの実現】

子どもたちの興味・関心を引き出し、一人ひとりが夢や目標を持つことができるような学びを展開していきます。また、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力を着実に身に付けさせ、キャリア発達を促すとともに、様々な困難を乗り越えることができるよう支援します。

### (3) 第6次千葉市生涯学習推進計画（計画期間：令和5年度～令和14年度）

#### ■計画目標■

新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域・社会に生かし、多様な主体と連携・協働を図り持続可能な社会を形成できる環境をつくる

～ 一人ひとりが 学びを通して成長し みんなが輝くまち 千葉市 ～

## 各論

### 2 多様な学習機会の充実

#### 【基本施策2-3 現代課題に対応する学習機会の提供】

急速に変化する社会において、新たな時代の課題に対応し、生命や暮らしを守る学習や、持続可能なコミュニティづくりにつながる学習の機会を提供します。

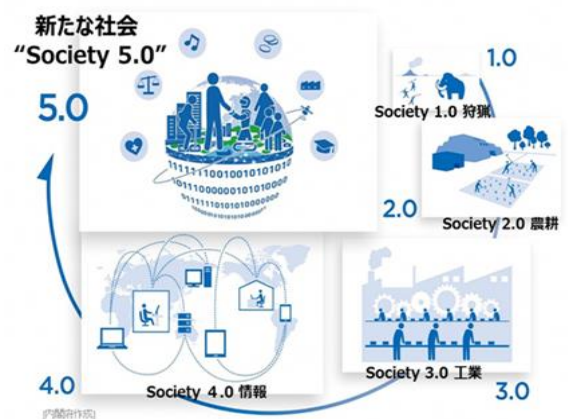
## 3 これからの社会

### (1) 子どもが生きるこれからの社会

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会が Society 5.0 です。

IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すとされ、課題や困難の克服が目指されます。

人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになります。



総務省 HP「Society 5.0 とは」より

### (2) 技術革新に伴う職業の変化

コンピューターの技術革新により IoT が進む中、ロボットなどの機械が人間に代わって仕事をする「仕事の自動化」が一層進みます。

- ◆ 「2011年に米国の小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く」  
～キャシー・デビットソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）～
- ◆ 「今後10～20年で、日本の労働人口の49%がAIやロボット等で代替可能に」  
～（株）野村総合研究所（マイケル A. オズボーン准教授らとの共同研究）～
- ◆ 「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きる」  
～Human Mortality Database、U.C. Berkeley(USA)and Max Planck Institute for Demographic Research(Germany)～

産業が変わって働き方が変われば、「働くこと」の意義も変わります。また、社会の変化により必要な能力・スキルも変わるため、常に社会の情報やスキルを新しいものにするよう、「自ら学ぶ力」が重要になります。

## 4 これまでの本市のキャリア教育

### (1) キャリア教育推進連携会議

平成28年3月・6月・8月・12月実施

内容：企業および学校におけるキャリア教育や人材育成に係る取組の情報共有

平成29年10月・平成30年3月・10月実施

内容：本市における新しい取組についての協議

平成31年2月・令和元年11月・令和2年2月実施

内容：職業体験学習の見直しと推進に向けた方策についての協議

令和2年11月・令和3年2月実施

内容：今後必要となる資質能力を、各段階で高めていくための取組についての協議

令和3年11月・令和4年2月実施

内容：職業体験学習の取組を推進するため、実施上の課題解決に向けた協議

令和4年11月・令和5年2月・8月・10月・11月実施

内容：「千葉市のキャリア教育新基本方針」の内容についての協議

### (2) 「進路選択の手引」発行（昭和57年9月）

進路選択の手引「ハロー マイ フューチャー」へ改称（平成5年度）

### (3) 進路学習ノート「わたしの夢」発行（平成7年3月）

キャリア教育ノート「わたしの夢」へ改称（令和2年度）

### (4) 「キャリア教育主任研修会」の開催（平成29年7月～）

### (5) 「キャリア教育ガイドブック（改訂版）」の発行（平成30年3月）

「キャリア教育ガイドブック（H19年度版）」を改訂し、本市教職員向けに発行した。

### (6) 技術職・技能職の魅力啓発冊子「STYLES（スタイルズ）」の発行（平成31年3月）

### (7) 「千葉市の専門高校ガイド」の発行（令和元年5月）

### (8) 「キャリア・パスポート」全校実施（令和2年4月～）

### (9) 「キャリアプランニング能力育成のための教員用キャリア教育ガイドブック」の発行

【東京情報大学との共同研究】（令和3年3月）

### (10) 技術職・技能職の魅力啓発動画「STYLES Movie」の公開（令和3年4月）

### (11) ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム「Seedlings of Chiba

（シードリングス・オブ・チバ）」の設立（令和3年12月）

### (12) 職業体験学習の推進

市立学校において、職場体験と出前授業を組み合わせ「職業体験学習」として実施



## 5 具体的な取組についての説明や補足

### ○教職員の指導力向上のための研修の充実

- ・校内研修の充実
- ・キャリア教育主任研修会
- ・次世代リーダー研修
- ・長期研修
- ・中堅教諭等資質向上研修における社会体験研修
- ・キャリア教育指導者養成研修
- ・千葉市教育研究会キャリア教育部会連携講座 など
- ・研究指定校による実践
- ・現場研究員
- ・21世紀を拓く課題研修

### ○キャリア教育ノート「わたしの夢」

中学校1、2年生の生徒が、自分らしい生き方を考えたり、学ぶ意義や自分自身を見つめたりする活動を通し、将来の夢や希望、目標をもてるよう活用していきます。また、今を生きる生徒の実態や社会の様子を取り入れ、生徒の主体的な進路の選択や将来設計を行うため、テキストの改訂を毎年行います。

配付対象：千葉市立中学校（1年生）



### ○進路選択の手引「ハロー マイ フューチャー」

「将来の生き方を考える進路」を生徒に定着させ、進路適性の吟味と進路情報の活用、主体的な進路の選択と将来設計などを行うため活用していきます。特に進路選択にあたっての基本的な考え方や決定までの最新の手順等が理解できるように、テキストの改訂を毎年行います。

配付対象：千葉市立中学校（3年生）

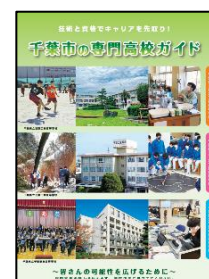


### ○「千葉市の専門高校ガイド」の活用

自己の進路・将来を主体的に考えることができる力や社会的・職業的自立およびキャリア発達を促したり、専門高校への理解を深め、進路選択の幅を広げたりするために活用しています。

また、専門高校の魅力を紹介するため、最新の情報を発信できるように毎年刷新し、対象生徒に配付します。

配布対象：千葉市立中学校（1・2年生）



## ○職業体験学習の充実

児童生徒が夢を持つことの大切さや今学んでいる意義等を考えることができるようにするために、企業や各種団体、地域、家庭等と連携を図り、職場体験(※1)や出前授業(※2)をはじめとした職業体験学習を実施します。

※1 職場体験…主に、児童生徒が地域の企業等を訪問し、体験活動等を行うこと

※2 出前授業…企業、団体等の方が講師として学校を訪問し、講話等を行うこと

## ○技術職・技能職の魅力啓発冊子・動画「STYLES (スタイルズ)」の活用

求職者が事務職に偏り、技術職・技能職(\*)の人材不足が著しい「雇用のミスマッチ」解消に向けた中長期的対応として、中学生に技術職・技能職の魅力を伝え、将来の就労先の選択肢として認識できるよう、冊子や動画を作成し、生徒及びその保護者に配付・周知します。

\*「技術職・技能職」とは、専門的な技術をもち、それを活かして働く仕事のこと。技術者、エンジニア、職人など。

冊子配付対象：千葉市立中学校2年生

動画閲覧対象：中学生・高校生・中高生の保護者

## ○ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム Seedlings of Chiba

激しく変化する社会を生きる子どもが、変化に柔軟に対応し、自らの力で社会課題を発見し、新しい仕事を創り出しながら成長できる地域社会を実現するため、産学官によるコンソーシアムが、西千葉子ども起業塾などのアントレプレナーシップ教育プログラムを提供し、未来の千葉の産業を担う子どもの成長を支えます。

対象：小学生・中学生・高校生

## ○夏休みおしごと感動体験ワクワクワークデー

市内商業施設や企業・大学等との協働により、楽しみながら多様な仕事を体験し、自分の将来や就きたい仕事について考える機会を提供します。

対象：小学生

## ○幕張新都心ビジネススクール

神田外語大学や、市内に拠点を置きながら活躍する企業と連携し、ビジネスの楽しさや先端技術を学ぶことにより、将来の進路選択や就職活動に繋がる気付きを発見する機会を創出します。

対象：高校生